

課題解決型研究プログラム 資源循環研究プログラム

委員会からの主要意見
現状についての評価・質問等
<p>○アジアから身近なゴミ出しまで、広範囲で多面的な問題に取り組むための研究を進めて成果を出している点は評価される。</p> <p>○一方で、プロジェクトや個々の研究をどう体系的、戦略的に統合していくのかを明確にするため、具体的な連携方針を示し、プログラム全体として、問題解決にどのようにつなげるのか、どのようなアクションが重要であるかなどが示されるとよい。</p>
今後への期待など
<p>○アジアに焦点をあてた研究は重要であり、今後の成果が期待される。国立環境研究所として、どのような位置づけや役割、シナリオを想定して展開していくのかを明確にして取り組むべきである。</p> <p>○成果の民間へのインプット、社会への還元が期待され、そのための具体的な方策を確認しておく必要がある。</p>

主要意見に対する国環研の考え方
<p>① PJ 間の連携や災害環境研究 PG などとの連携について、実際には研究者の重複を含めて連携しているものもありますが、説明が不足していた点を反省しています。PG 全体としても問題解決へのアプローチは多岐に存在しますが、資源・有害物質管理、バイオマスなどいくつかの具体的なテーマで共通の軸や考え方が示せるよう議論したいと存じます。</p> <p>② アジアを対象とした研究は多く展開していますが、技術開発においては、開発中の前処理を含めた埋立関連技術や生活排水処理技術などは当該国への技術移転、浄化槽などの既存技術は当該国での制度設計を含めた導入システムづくりに取り組んでいます。これらの際、各国の大学(の研究者)を軸(窓口)として、研究機関や国や自治体との連携を図っており、タイにはこれら連携の拠点として Collaboration Research Laboratory を設置しています。</p> <p>③ 民間に対するインプットの点では、PJ4 で国産技術を用いた衛生施設ビジネスモデルの民間企業への提案という形を目指しています。また、PJ5 では、複数の民間会社と連携してバイオ燃料製造技術の実証を検討しています。</p>